

ノモンハン戦争は何の為の戦争だったのでしょうか？

—歴史検証と北東アジアの未来を展望する旅に参加して—

杉田 春恵

十年振りにパスポートを取得、孫同伴で初めての中国旅行です。八月十九日北京空港へ降り立ち、想像以上の立派さに、まずびっくり。すったもんだの末に、ようやく出来た成田空港とは比べ様も無い広大な規模でした。この旅は観光ではなく、ノモンハン事変の戦蹟、方正への墓参り、現在の旧満州の戦後の復興を見届けたい思いからでした。

参加者の中には学識、専門的に勉強をなさった方がいらして、浅学非才の私は本当に勉強になりました。ノモンハン事変は何の為の戦争だったのでしょうか？ 専門的に現在も研究をなさっている中国人「徐占江先生」への、鋭い質問もあり、大変実り有る一夜でした。広い広い大草原で虚しい戦をした日本軍隊。装備もろくに無いまま兵を無駄に死に追いやった参謀本都が、机上で作戦し、何の反省もないままに第二次大戦でまたまた国の内外へ戦災を拡大、国民を苦しめたことは許すことは出来ません。日本軍の作った要塞を見学、胸が痛くなりましたが、そこへ記念館を建て、抗日？ 平和目的？ 友好的になれるのでしょうか。私は真実恐ろしくなりました。

チチハルは六十五年前、新婚旅行に行った思い出の地でしたが、龍沙公園は昔の佛は無く大都市となり高層ビルが林立、思い出だけ心の内でさようならを云いました。札龍^{ジョロロン}大湿原に舞う丹頂鶴に心いやされました。

八月二十四日、バスは広野をひた走り「大慶油田」へ。あちらこちらに「カマキリの手」の様な形をした掘削機械が現在も掘っている光景と、現代式の機械で採油しているのを目の前で見ながら、過日、茅原教授が「大慶の油田が中国の経済発展を担ってその原動力となっていたのです」、と仰った言葉を思い出し、満州には石炭しか無いと思っていた私が恥ずかしくなりました。

そしてこの油田で生産を高めた功績者「王進喜」を讃えた「鉄人記念館」を見学、そのスケールも大きく三十年後に涸渇する油田を見通して、ここを観光名所にしようと云う、将来を見通しての記念館を作った中国の先見の明に脱帽です。ハルビンの夕食は久々の日本料理、グッドタイミング！！

ハルビンは昔から垢抜けした街として憧れていましたが、現在は何処へ行っても道路工事、建築ラッシュ。きっと近い将来、見違える様な街になっていることでしょう。

ハルビンから方正へ三時間、開拓団の人々が逃げまどったであろう道を通して日本人公墓へ到着。ハルビンから同道下さった千光寺・竹井成範住職様と共に線香をたむけ読教、「安

らかにお眠り下さい」、そしてこのお墓を作って下さった中国の方々へ深い感謝を捧げました。隣接したお墓は四百人の日本人が自決した墓とのこと。どんなにか口惜しく悲しかったことでしょうか。ここへもお参りさせて頂きました。

ノモンハンから方正への長い道程でしたが、ずっと慰霊にご一緒させて頂きたく思い続けて参りましたので少しも疲れも感じず、いろいろと知識を頂き、現在の軟弱な日本が見習うべき中国への関心を深めた旅となりました。

ハルビンへのバスは稲刈り間近の広大な農地をひた走りました。夕暮れの西の空が茜色に染まり、大きな太陽が沈み始めました。ふっと東の空を月が昇って来ました。満月です。こんな風景はどこでも見られることは無く、まさに大陸ならではのことでしょう。中国旅行の終りに素晴らしいプレゼントになりました。

このツアーには各地の方々がいらっしゃって交友を深め、八十三才の私を暖かく見守り手を貸して下さいました。深く深く感謝申し上げて居ります。孫の啓輔も責任を果たし安堵した様です。

この度の旅行にお世話になりました方々に心からお礼申し上げ、旅の思い出を綴ってみました。有難うございました。